

日本声楽発声学会

2025 年度 夏季研修会

2025 年（令和 7 年） 8 月 25 日（月） 9：55～17：30

（受付開始 9：30）

於：日本福音ルーテル東京教会（JR新大久保駅下車）

東京都新宿区大久保 1-14-14 （会場への電話はご遠慮ください）



↑こちらのQRコードよりアンケートにお答えください

（お願い）

① 携帯電話等音の出るものはマナーモードに設定するか電源をお切りください。

② 録音、録画、写真撮影は固くお断りいたします。

（本学会では記録・ネット配信用として録音・録画はいたしますが、それ以外は個人情報および著作権保護のため、厳禁いたします。違反の場合は機材等を学会でお預かりすることがあります）

③ 体調管理はご自身の責任で行ってください。体調不良の場合は無理をせず、事務局スタッフや理事にお知らせください。

プログラム

総合司会：池田 京子（副会長）

◎ 開会挨拶：佐々木 正利 （会長） 9:55～10:00 IF 大会議室

◎ A 講座 「音声生理学講座」 10:00～12:00

司会：佐橋 美起（理事）

演題：「音声生理学から探る多様な発声技術と歌唱法のメカニズム」

会場：IF 会議室 I

講師：竹田 数章（たけだ かずあき）

概要：まず発声の音声生理・解剖学の基本について述べる。歌唱の世界には多様な発声法がある。ミュージカルやポップスで良く使われるベルティング唱法と声楽発声（ベルカント唱法）との比較を音声生理学的な観点から探っていきたい。喉頭ファイバーでの実際の喉頭、声帯周辺の画像から解剖学的変化について、また MRI 画像で体内の歌唱時の違いを供覧する。両者の音響的な差異も比較検討する。現代音楽でも使われるホーミー歌唱は声帯を調整し、同時に複数の音を出す独特な歌唱技術である。共鳴の技術は発声において重要だが、ホーミーでは口腔内の共鳴スペースを変化させることもある。ホーミーでの実際の MRI を使った体内の画像と音響分析を示す。共鳴に関しては、体壁振動による共鳴についての実験モデルも見ていただく。ハミングによる歌唱、マスケラ領域を響かせる利点についても触れたい。ビブラートとノンビブラート歌唱についても述べたいと思う。

プロフィール：仙川耳鼻咽喉科院長。日本医科大学大学院博士課程卒業。医学博士。現在仙川耳鼻咽喉科院長。元桐朋学園・洗足学園非常勤講師。音声生理学や臨床音声学の講義を行う。文化庁能楽養成会（森田流笛方）研修終了。音声生理学を米山文明に師事、Atem-Tonus-Ton(呼吸一筋緊張・体の使い方ー音・声)呼吸法をマリア・ヘッラーと共同研究。監訳書に『ヴォイス・ケア・ブック 声を使うすべての人のために』（ガーフィールド・デイヴィス&アンソニー・ヤーン著、音楽之友社刊）、『発声ビジュアルガイド』（セオドア・ダイモン著、音楽之友社刊）。ONTOMO MOOK『人生をより豊かにする音楽と医学ーのど、脳、身体の機能から探る』（音楽之友社刊）



質疑応答 11:40～12:00

***** 昼食・休憩 12:00～13:00 *****

◎B 講座 「公開レッスン」 13:00～15:00

司会：齊藤 祐 （副会長・事務局長）

演題：「ドイツ歌曲の演奏法」

会場：2F 礼拝堂

講師：戸山 俊樹（とやま としき）

概要：発声法、発音法を確認しながら、作曲者の意図に寄り添う音楽表現をめざします。



プロフィール：1983年東京芸術大学大学院オペラ科修了。1982年日本音楽コンクール第2位、海外派遣コンクール松下賞、1983年ジュネーヴ国際音楽コンクールブロンズ・メダル受賞。1984年よりドイツ・ハーゲン市立歌劇場専属契約バス歌手。「フィガロの結婚」（バルトロ）、「魔笛」（ザラストロ）、「セヴィリヤの理髪師」（バジリオ）、「リゴレット」（スパラフチーレ）、「ボエーム」（コリーネ）、「ローエングリン」（ハインリヒ王）、「ホフマン物語」（クレスペル）等の役で出演。また、バッハのカンタータや「マタイ受難曲」、ベートーヴェン「第9」、ブルックナー「f-moll ミサ曲」等のコンサートソリストとしても高い評価を得る。1990年愛知県立芸術大学専任講師。同年、日本ワーグナー協会創立10周年記念日生劇場・日本ワーグナー協会共催による「トリスタンとイゾルデ」にマルケ王役で出演。1992年ジロー・オペラ賞受賞。1993年、遠藤周作原作、松村禎三作曲のオペラ「沈黙」初演にフェレイラ役で出演。愛知県芸術劇場のオープニング・コンサートや同劇場におけるオペラ「魔笛」（ザラストロ）、「魔弾の射手」（隠者）、「後宮からの逃走」（オスミン）、「夕鶴」（惣と）等に出演。1999年びわ湖ホール「ドン・カルロ」5幕版日本初演にフィリッポ2世役で出演。コンサートの分野でも、名古屋フィルハーモニー交響楽団、NHK交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京都交響楽団、東京交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団など、国内主要オーケストラと共演、2018年2月NHKBSクラシック倶楽部「戸山俊樹バスリサイタル ブラームスの歌曲」出演。日本ドイツリート協会顧問、二期会会員。愛知県立芸術大学名誉教授、同大学第11代学長。

●受講者と演奏曲 （全3作品 R.Shumann 作曲）

- | | |
|---|------------|
| 1. Bar. 山口 晃永 Op.49 No1 “Die beiden Grenadiere” | Pf. 入川 めぐみ |
| 2. Sop. 大月 理央 Op.79 No 24 “Er ist's” | Pf. 太田 舞 |
| 3. Ten. 伊藤 陽平 《Myrthen Op.25》 No21 “Was will die einsame Träne” | Pf. 井上 愛理 |

質疑応答 14:40～15:00

演題：「うたを書くということ」

会場：2F 礼拝堂

講師：上田 真樹（うえだ まき）

概要：詩から「うた」を書くということについて考える。まず、二曲の同声二部合唱について、作品を分析したのち実際の歌唱を聴くことによって、詩の世界を音楽にすることについて考える。次に、一つの歌曲を通して旋律を「歌わせる」ということについて、また一つの重唱をとりあげ、言語による違いについて考察する。その後、数曲の合唱曲の分析と録音を聴くことによって、「うた」そのものについて作曲者の考えと作品における特徴を知る。

- ・「あおい天使」（今年度 N コン小学校の部課題曲）→同声二部*
- ・『あめつちのうた』より「空のうた」→同声二部*
- ・「わすれなぐさ」→歌曲*
- ・「Little Birds（ことり）」→同声二部*
- ・「ごびらっふの独白」→混声四部合唱（録音）
- ・「いそひともじ」or『花と風と』より「ありくいながら・・・」→混声四部合唱（録音）
- ・『夢の意味』より→混声四部合唱（録音）

*印の演奏は合唱団「粋声」有志のみなさま



プロフィール：東京生まれ。5歳の頃よりピアノを始め、桐朋学園大学音楽学部附属子供のための音楽教室、東京都立芸術高等学校音楽科作曲専攻を経て、東京藝術大学音楽学部作曲科卒業。同大学大学院音楽研究科音楽学（ソルフェージュ）博士課程修了。論文『明治初期における西洋音楽用語の創成—滝村小太郎と音楽取調掛—』により、ソルフェージュ分野において国内初となる博士号を取得。博士（学術）。第12回奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門第二位入賞。第18回朝日作曲賞（合唱組曲）受賞。主な作品に、『夢の意味』（東京混声合唱団委嘱）、『鎮魂の賦』（朝日作曲賞受賞作品）、『終わりのない歌』（早稲田大学グリークラブ委嘱）、『あらしのよるに』（NHK 東京児童合唱団委嘱）、『あめつちのうた』（ヤマトホールディングス株式会社委嘱）、『花と風と』（ハケ岳ミュージックセミナー委嘱）、『月の夜』（神奈川県立音楽堂委嘱）、オーケストラのための「あけぼの」（横浜シンフォニエッタ委嘱）、『抒情小組曲～フルートとピアノのために～』などCDや楽譜の出版多数。また、第78回NHK全国学校音楽コンクール高等学校の部課題曲「僕が守る」、第85回同コンクール課題曲「ポジティブ太郎～いつでも始まり～」、第2回東京国際合唱コンクール課題曲「山のあなた」など課題曲の作編曲も多く、コンクールの審査員等も数多く務める。今年度のNコン小学校の部課題曲「あおい天使」の作曲を担当。『心に花を咲かせようプロジェクト』では作編曲作品を提供し、被災地におけるコンサートやワークショップの開催など、14年に亘り音楽を通してのボランティア活動も行っている。作曲活動の傍ら、日本における音楽用語についての研究も行い、現音機関誌『New Composer』に「明治楽語事始」を執筆。現在、国立音楽大学、桐朋学園大学、東京都立総合芸術高等学校、各非常勤講師。日本ソルフェージュ研究協議会理事。

質疑応答 17:00～17:20